

【東京都千代田区】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和2年11月から1人1台端末のICT環境を整備し、令和3年9月には顔認証システムやシングルサインオンの搭載、アプリケーションの入れ替え等、ICT環境のリプレースを行いました。その結果、セキュリティ対策の強化、利便性の向上、操作性の向上等を図ることができました。

リプレースに合わせ、また国の「GIGAスクール構想」、都の「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）」を受け、本区の取組の名称を「ちよだスマートスクール」としました。

学び方・教え方・働き方を推進するための具体的な17の取組目標を掲げ、教員向けのリーフレットを作成し、実現に向けて取組を展開しています。

教師は授業改善を図り、ファシリテーターとなり、段階的に以下の学びの姿を目指しています。

①「子ども同士がつながる学び」

- ・クラウドを活用した協働的な学びや探究的な学び、オンラインを活用した遠隔授業

②「子ども自身が学習方法を決める学び」

- ・学習者自身がデジタル教科書やデジタル教材等を活用、学習履歴を活用した自己調整学習

2. GIGA第1期の総括

令和2～4年度、利活用促進を図るため、教員にICT授業指針を示し、実践事例を共有してきました。また、オンラインによる保護者向けセミナーを実施したり、児童・生徒向けのICT活用ハンドブックを配布したりしました。

このような取組が評価され、学校情報化認定において区立学校全11校が「学校情報化優良校」に、千代田区教育委員会が「学校情報化先進地域」として認定されました。

令和5～6年度には、より一層の利活用促進を図るため、初任者・異動者を対象とした研修や生成AIの研修、情報活用能力育成を目指した子ども向けのイベント等を計画・実施しました。また、区の施策として「ちよだスマートスクールの日」を各学校で設定し、保護者や地域の方々に、ICTを活用した授業公開をするとともに、講演会や意見交換などをする取組も行いました。

さらには九段中等教育学校が、文部科学省「リーディングDX事業」において、指定校及び生成AIパイロット校に選ばれ、実践の好事例を区内含め全国に展開しました。

令和3年度から4年間、本区が独自で実施している「児童・生徒を対象とした情報活用能力に関する実態調査」の結果から、ICTスキルの向上やアウトプットを多く取り入れた授業が行われていることがデータから見られたことが成果です。

一方で、発達段階や時代に応じた情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を意識的、計画的、系統的に指導していく必要があることが分かりました。

3. 1人1台端末の利活用方策

上記の1. 及び2. を踏まえ、以下のとおり今後の端末利活用を推進していきます。

令和8年度のICT環境のリプレースにより、児童・生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持するだけでなく、より一層推進していきます。

(1)「1人1台端末の積極的活用」

- ①発達段階に応じた情報活用能力の育成
- ②情報モラルやメディアリテラシーの育成強化（「ちよだりテラシー教育」の推進）
- ③生成AIの利活用
- ④全国学力・学習状況調査等のCBT化への対応

(2)「個別最適・協働的な学びの充実」

- ①学習指導要領の着実な実施と授業改善
- ②都の「デジタルを活用したこれからの学び」の推進
- ③教育ダッシュボードを用いた教育データの利活用
- ④教員研修のアップデート（オンラインやオンデマンドの活用、子どもの学びと相似形の研修）

(3)「学びの保障」

- ①不登校児童・生徒等へのICT等を活用した学習
- ②バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）の活用